

三浦市水道ビジョンの実施状況について

1 三浦市水道ビジョン（令和3年度～令和12年度） 令和5年度決算における目標達成状況

(1)安全な水道水の供給に係る目標

実現方策	目標設定	内容	関連 ページ	令和元年度 (策定時基準)	令和4年度 (前年度)	令和5年度 (計画3年目)					令和12年度 (最終年度)
				実績	実績	実績	前年比	目標	達成状況	×の理由	目標
①残留塩素濃度の管理	(毎年) 平均残留塩素濃度1.00mg/L以下の達成	↑ ↓ 1.00m g / L 0.40m g / L 0.10m g / L 厚生労働省の水質管理 目標は1.00mg/L以下 三浦市水道水の 平均残留塩素濃度 水道法では 0.10mg/L以上が必要	P16	0.44mg/L	0.48mg/L	0.40mg/L	↗	1.00mg/L 以下	○	—	1.00mg/L 以下

(2)災害に強い強靱な水道に係る目標

実現方策	目標設定	内容	関連 ページ	令和元年度 (策定時基準)	令和4年度 (前年度)	令和5年度 (計画3年目)					令和12年度 (最終年度)
				実績	実績	実績	前年比	目標	達成状況	×の理由	目標
③老朽管更新に伴う管路の耐震化	(令和12年度) 管路の耐震管率54.5%以上	策定時の県内の耐震管率の平均20%程度を、三浦市は大きく上回っていますが（県内平均よりは耐震化が進んでいて良い状態であること）、引き続き計画的に耐震化を進めていきます。	P19	49.8%	50.2%	50.6%	↗	51.1% 以上	×	計画では、水道管路の耐震化を進めるため、老朽化した「非耐震管」を「耐震管」に更新することを数値化しました。実施にあたり、令和3年度～令和5年度では、事前の漏水調査により老朽化した「耐震管」のうち、漏水が疑われる管路を更新をしたことにより、未達成となっています。⑥の「有収率」及び⑦の「管路更新率」など併せ、状況に応じて更新してまいります。	54.5% 以上
⑤重要給水施設管路の耐震化	(令和12年度) 重要給水施設管路の耐震適合率96.9% 以上	需要給水施設に直結する管路を優先して耐震化を図ります。	P21、 P60	95.5%	96.4%	97.0%	↗	95.6% 以上	○	—	96.9% 以上

(3)健全な水道事業経営の持続に係る目標

実現方策	目標設定	内容	関連 ページ	令和元年度 (策定時基準)	令和4年度 (前年度)	令和5年度 (計画3年目)					令和12年度 (最終年度)
				実績	実績	実績	前年比	目標	達成状況	×の理由	目標
⑥漏水調査と有収率の向上	(毎年) 有収率0.1%/年の向上	県内平均と三浦市を比べると、同水準ではありますが、引き続き率の向上を目指します。	P24	84.8%	83.9%	83.6%	↘	85.2% 以上	×	老朽管の計画更新や、外部委託を含めた漏水調査による、疑われる箇所の早期修繕、他事業者からの調査技術教授により有収率の向上に務めていますが、改善には至っていません。令和4年度からは、「所有者等が負担する修繕工事の対象箇所の一部」を、「水道事業費用負担の対象箇所に拡大する」ことで、迅速に漏水に対応できる体制としました。引き続き、あらゆる方面から「有収率の向上」を目指します。	86.0% 以上
⑦優先度を考慮した老朽管の更新	(毎年) 管路更新率0.5%以上の継続	更新率1%ペースで、全管路更新に100年かかります。更新率0.5%以上を確保しつつ、最新の長寿命な材質の管を採用することで、経営の負担を軽減し、管路の健全性を確保します。	P25	0.3%	0.4%	0.7%	↗	0.5% 以上	○	—	0.5% 以上
⑩健全経営による事業の持続	(令和12年度) 給水収益に対する企業債残高の割合 500%未満	策定時の県内平均は300%の中程です。人口減少時代を考慮し、事業費に対する企業債の充当率を抑えていくことが求められています。	P27	418.0%	348.1%	325.2%	↗	500.0% 未満	○	—	500%未満
⑫安定的な財源確保	(令和12年度) 資金の確保	災害時対応のための財源確保をします。（給水収益の約2カ月分を確保します）	P79	0億円	0.1億円	0.3億円	↗	0.1億円 以上	○	—	2億円以上

※三浦市水道ビジョンP69 「目標達成に向けての実施計画」の14項目(①～⑭)から、主なもの7項目を対象としました。実現方策の○N0は、ビジョンの○N0と一致します。

※前年比 ↗ は好転、 → は変化なし、 ↘ は悪化を表しています。